

Title: 「アジアの空に水母が揺れる」



羽立 孝
1981年鹿児島生まれ。2005年から水問題を撮り始め、この海外FWでも水の環境問題を続けて撮り進めて行く。

● 最近のエントリー

- ☞ [Borderline](#)
(2006.07.30)
- ☞ [杭州](#)
(2006.07.26)
- ☞ [中国の方は観光が好き！?](#)
(2006.07.23)
- ☞ [遅りすぎて昆明](#)
(2006.07.21)

● アーカイブ

- ☞ [February 2007](#)
- ☞ [January 2007](#)
- ☞ [December 2006](#)
- ☞ [November 2006](#)
- ☞ [October 2006](#)
- ☞ [September 2006](#)
- ☞ [August 2006](#)
- ☞ [July 2006](#)
- ☞ [June 2006](#)
- ☞ [May 2006](#)
- ☞ [April 2006](#)
- ☞ [March 2006](#)

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

- ☞ [Bangkok](#)
- ☞ [Hanoi](#)
- ☞ [Ho-Chi-Minh](#)
- ☞ [INDIA](#)
- ☞ [Malaysia](#)
- ☞ [SiemReap](#)
- ☞ [Taiwan](#)
- ☞ [石垣島](#)

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



RSS 2.0

アジアの空に水母が揺れる > July 2006 アーカイブ

06.07.30

Borderline

[Tweet](#)

[Check](#)

7月26日

杭州から上海へ電車で移動。

切符の種類は硬座だった為一抹の不安を抱えていたが指定席だった為か、ある程度の自分の場所を確保する事ができ、荷物も自分の近くに置く事が出来た。硬座でもこういう切符があるのだなと思えば安心。



上海での撮影初日は思いのほか順調だった。いつものごとく地図である程度の見当をつけ、適当に徘徊してまわる。



着いた場所は山市の赴いた場所によく似た「境界線」のある風景だった。

そこでは上海以前の街に滞在した時によく目にした風景が広がっていた。

フルーツを売り並べる人達、鳥を屠殺する人達、道端で髪を洗い衣服を洗濯する人達。

この場所以前に訪れた場所との違いはその背後にあるのは高層ビルやマンションの新興的な建物群である。でもその違いはいずれこの住民に重くのしかかってくるのだらう。今やこの古い建物は少数であり、日本と同じように地上げされ、駐車場やビルが建ち始めていくのかもしれない。それはオセロのように徐々に、そして一気に変化していくことだらう。そうなるここに住んでいる人達はどうなるのだらうか。この古い建物の所有者は上海という基準を作るなら決して裕福とは思えないように感じる。そうするとこの人達はきっとこの土地を失い、新しく出来るかもしれない高層住宅に住む事も出来ず、土地を追われてしまう人達なのかもしれない。



撮影していると理解に苦しむ中国語で話しかけられていた、中国語で話しかけられてもその声だけでは自分に対して話しかけたのではないのでは？とまず思ってしまう。見るとこちらを見ているので素直に「わからない」と言うと日本人である事を察してくれたのか「アイヤア」と一言呟く。私を中国人と思ったのだろうか、それは初めての経験なのでこちらもびっくりした。

そんな彼はしばらくカメラの周りを動き回りながら私の「撮影風景」に興味深く見ていた。ふと、レンズの先にある被写体を踏んでいた事に気付いた彼は「大丈夫？」みたいな事をジェスチャー混じりで言ってきたので、私は選じるかどうか考えもせず、ひとまず「無問題(モーマントイ)」と言ってみた。



通じた。中国語で返ってきたのが好ましかったのか、もう一人の男と何か嬉しそうにしていた。そのもう一人の男性は理解できなかった様だったできわどいラインの発音だったに違いない。

彼は最後にこの袋小路の様な細い路地で行き先に困っている私に人差し指で宙に円を描きながら道順を教えてくれた。「謝謝」と言った私に「謝謝、bye-bye」で応えてくれた。

そんな彼も追われる立場の一人なのだろうか。

[続きを読む "Borderline" »](#)

カテゴリ：

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.30 | [パーマリンク](#) | [コメント \(20\)](#)

[アジアの空に水母が揺れる](#) > July 2006 アーカイブ

06.07.26

杭州

[Tweet](#)

[Check](#)

7月22日に杭州に来て、7月26日の今日(杭州5日目)、やっと晴れ間が見えました！！

でも、今は上海です。ですので杭州の晴れ間や霧がかかってない西湖を見ることができたのは結局数時間だった。





このような大きな湖に似たものが母校のすぐ近くにあり、なんとなくそれを思い出した。別にそこは観光地というわけでもないのだが、対岸に見える霧がかった風景が自分を郷愁の想いに浸らせる。部活動をするために放課後に毎日通った事冬に一周4キロの行程を走る部活對抗駅伝大会をしたことなど。夏になると花火大会もあったな、なんて思ってみたりする。でもこの花火大会は一度しか行った事がない。それは故郷で一番の人が集まる花火大会であり、私には遠くから見ている方が性に合っているからだろう。日本は今そういう季節でもあるのだな、とそこでまた一つ想ってみた。

ただここは杭州。。。

とにかくお茶がおいしい！それだけで1以上1のことはどうでも良くなります。西湖龍井(緑茶)の渋みは杭州に降る雨に対する鬱々した感情を一掃してくれました。



西湖にあった水滸伝108人の豪傑の一人張順。杭州は張順と緑が深かったのですね、勉強になります。



杭州がここまで都会だと思ってもみなかったのでこの街並には少々驚いた。やんちゃな若者がいるのも都会らしく思う。杭州に熊本ラーメンのチェーン店があったので思わず入ってしまった、久しぶりのらしい豚骨ラーメンを食べて日本を、というか故郷の博多を懐かしく思った。やっぱりラーメンは豚骨でしょうと思う今日この頃。





たまたま撮影のために歩いた呉山天風という場所。よく知らないで行ったが観光名所であつたらしい。

という感じで結局杭州は観光してないのでこれが限界のレポートです。とにかく杭州でお茶を飲みたくなったら茶人邸という茶館がオススメです、わかるのはこれだけです(NKCsato様>お役に立てず申し訳ありませんm(_ _)mでも撮影は多少出来ましたよ！撮影ノルマは雨のため達成できませんでしたが。。)。

カテゴリ:

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.26 | [パーマリンク](#) | [コメント \(2\)](#)

[アジアの空に水母が揺れる](#) > July 2006 アーカイブ

06.07.23

中国の方は観光が好き！？

[Tweet](#)

[Check](#)





石林に行ってまいりました。

旅の恥は書捨てとは申しますもので

場所を決める

↓

写真を撮る(取って置き決めポーズ)

↓

もう一枚撮っておく(同じ決めポーズ)

↓

手ぶれで失敗する(同じ決めポーズ)

↓

目をつぶっちゃった(同じ決めポーズ)

・

・

・

渾身のワンカットを撮るための努力！！

この一言に尽きるのでしょう。

学ぶことが多いですね、中国。

えっ！？私ですか！？

そんな、決めポーズなんて100年早いですよ(´▽`)>

[続きを読む "中国の方は観光が好き！?"](#)

カテゴリ：

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.23 | [バーマリンク](#) | [コメント \(19\)](#)

[アジアの空に水母が揺れる](#) > July 2006 アーカイブ

06.07.21

通りすがって昆明

[Tweet](#)

[Check](#)

最近、耳の中に汗が溜まるんです。
髪の毛を伝わってINしていることに気が髪を切りました。

そんな昆明3日目です。

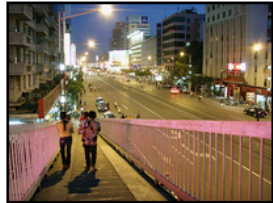




さて、昆明という街の郊外には雲南民俗村というものがありまして、少数民族が多数いる雲南省のそれを紹介しているテーマパークがあるんですね。なんとも日光江戸村のかほりがいたしませんか？しかし、日程の都合上、結局この一大テーマパークには行くことができず、後ろ髪引かれる思いで明日にはこの地を去らなければいけません。もしまた昆明に来る事があればこのジャンクな場所にきっと訪れる事でしょう。



その明日には上海の南に位置する浙江省の杭州という場所に向かいます、飛行機で昆明から2時間と20分。このフライトが終わればしばらく飛行機に乗る事もなくなります。これで荷物制限の為の小細工をするのももしばらくお別れです、嬉しいかぎり。



カテゴリ:

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.21 | [パーマリンク](#) | [コメント \(24\)](#)

[アジアの空に水母が揺れる > July 2006 アーカイブ](#)

06.07.18

揺蕩う水面に佇む杭の如く

[Tweet](#)

[Check](#)





明日、大理を発ちます。

メイン撮影が予定枚数に至り、想い留めるものはなくこの土地を去れる事をよく思う。

今日でちょうど4ヶ月。残り2ヶ月、悔いを土地土地に残さぬよう努めたい。

カテゴリ：

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.18 | [パーマリンク](#) | [コメント \(0\)](#)

[アジアの空に水母が漂れる](#) > July 2006 アーカイブ

06.07.17

群雲

[Tweet](#)

[Check](#)

7月14日、大理到着。



本来の予定では、13日に成都から昆明に飛行機で移動し、そのまま大理までバスで移動する予定であった。

しかし、13日はあいにくの雨模様。というか土砂降り...

この雨のために飛行機は4時間出発が延ばされた。まあ雨で4時間待たされるなんてインドを経験している身にとって大して気にならないはずだった。この決定が下された場所が搭乗後でないなら...

いつ出発するか定かでない飛行機の中で取り留めのない風景を延々と眺めているのはなんとも退屈・窮屈な時間だった。せめて搭乗する前にしてほしかったよ。



飛行機が4時間送れになったため、昆明に着いたのが13時過ぎ。

それからバスで大理に向かうと20時ごろ到着となるのでこの日は昆明に一泊。

バスターミナルの近くで宿を取り、そのまま次の日の朝一番のバスのチケットを手配(←購入と言うよりかっこいい気がする)。



大理の雲は興味深い。

ある程度の高所にあるからだろう。山の向こう側から登ってきたらう雲が山すそを這うようにして流れてくる。



あるハリウッド映画のワンシーンのように





空ばかり見ていたためか、この場所(1)で三脚を置き忘れる。この時、後ろで現地の人が何か大声でwめいていた。中国語のため対象が誰かも何を言っているのかもわからず、いつもの物売りがツアーの誘いぐらいにしか思ってなかった。しかし、普段より気分がよかったため丁寧に断るうと振り向いたそこにあったのが自分の三脚だった。あんなに自己主張の激しい三脚(7000グラム、元気な双子の赤ちゃんくらい?)を忘れるとは...、もっと大事にしなければいけませんね。

見知らぬ白族の方、その節はありがとうございましたm(_ _)m

カテゴリ:

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.17 | [パーマリンク](#) | [コメント \(516\)](#)

[アジアの空に水母が漂れる](#) > July 2006 アーカイブ

06.07.15

Chengdu Sichuan China

[Tweet](#)

[Check](#)

ネバールのカトマンズ

さらにラサと続いた上でこの街(成都)に来ると御のぼりさんの気分になる。

久しぶりのコンクリートジャングル。街角にあるマクドナルドやスタバ。



そんな文化(?)もあったなと思いつつ、一息つくためにスタバでコーヒーフラベチーノをオーダーする。

暑いときに冷たい物を飲むってことは実はおいしいものなのだ、と久しぶりに思った。所謂「冷たい飲み物」コールドなドリンクはそこら中に売っているのだが、「キンキンに冷えた」というものはなかなか望めない。飲み方を忘れていたのか勢いあまって頭がガンガンする。さっきまで幸せを感じていたのに次の瞬間には殺意を覚えていた。

成都はとても蒸し暑い。以前のラサは非常に乾燥していたため、日差しのないところは昼間でもとても涼しく、朝方は寒いくらいに感じられた(タンクトップで過ごしたけど...)



成都でのホテルは川沿いにあり、川の近くを歩くと脳食い虫(地元ではこう呼んでいた羽虫)が視界を遮る。

口に入らないように口をタオルで塞ぐと、次にはセミの鳴き声が聞こえてきた。

「もう夏だな。」

フィールドワークが始まったのが3月。あの頃はまだ冬で大阪を出港するまではまだ長袖のウィンドブレーカーを着ていた。フェリーに乗った瞬間にその長袖を脱ぎ捨てた私はタンクトップ一枚で感じる大阪の冬を必要以上に寒く感じていた。確か幼稚園の時にも半袖で凍えていたら先生に「上着を着なさい!」と怒られ教室まで走っていったものだ。成長してないな。いや服を着ればいってもんじゃないさ。うん。



3月に大阪を離れてからというもの石垣島、台湾と渡り歩き、ずっと気分的には夏気分だったためだろうか。このセミの鳴き声やうざいくらいの羽虫が夏を思わせると、ちょっと不思議な気分になる。きっと季節という時間の単位は私にとって必要十分なものなのだろう。



[続きを読む "Chengdu Sichuan China" »](#)

カテゴリ:

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.15 | [パーマリンク](#) | [コメント \(18\)](#)

[アジアの空に水母が揺れる > July 2006 アーカイブ](#)

06.07.09

ラサ

[Tweet](#)

[Check](#)

カトマンズから飛行機でおよそ2時間
そのフライトの最中、飛行機の左手にヒマラヤ山脈を確認することができた。
運良くも飛行機左手の窓側に座っていたため心行くまで世界の頂を堪能することができた。



ただし雲から突き抜ける山はたくさんあり、どれがエベレストが結局わからなかった。でもきつとあれだな、うん。



早速、ポタラ宮





空気が乾燥しているためか空がそのままきれいだった。でも空ばかり眺めていると紫外線で目をやられそう(汗)
[続きを読む "ラサ" >](#)

カテゴリ:
post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.09 | [パーマリンク](#) | [コメント \(88\)](#)

[アジアの空に水母が漂れる >](#) July 2006 アーカイブ

06.07.05

空の上から空の旅

[Tweet](#)

[Check](#)

ネパールではカトマンズの他にバイラワというインドにほど近い街に行った。

そこはカトマンズから飛行機で30分、バスなら8時間程かかる場所に位置している。飛行機ならば90\$近くかかるが時間も少ないので飛行機を使う事にした。

搭乗時間の1時間前にチェックインをし始めるのだが飛行機は約1時間遅れでチェックインを開始。

荷物はカトマンズに滞在している安孫子の部屋に幾分か置かせてもらい三脚とバックパックを併せて22キロ(ちなみに三脚は8キロ)まで抑える事に成功していたので20キロ制限にも引っ掛からないだろうと踏んでいた。

そして予想通りオーバーチャージを払わないでチェックイン完了。

搭乗をするにあたって電光掲示板みたいなものはなく、搭乗口も一つしかない。

知る方法は聞き取りづらい放送と搭乗口に立つ人の大声案内ぐらい。

ポーツとそれらを聞きながら係員に確認を取りつつようやく搭乗することができた。

バスに乗り込み飛行機へ向かう。

飛行機はひどくちっぽけで席は19席、この一つにフライトアテンダントも座るので乗客は全部で18人。これに操縦士と副操縦士を加えて計21人の空の旅である。この飛行機で旅をするとなると人がこれ以上になることはありえない。



しばらくすると、フライトアテンダントが脱脂綿と飴を配りだした。

脱脂綿!?



と思い、席が一番後ろだった事も幸いして他の人がどうするか確認した。



予想通り耳にその脱脂綿を詰めていた。そんなにこの飛行機は気密性が低いのかい！？

とびっくりしたが耳が痛くなるのは嫌だったのでとりあえず右に倣って脱脂綿が(滞りの飛行機で脱脂綿をつけなかったがもちろん大丈夫だった)

ちなみにパイラフからカトマンズに帰る際、飛行機は予定よりも1時間半早く出発した。

このことを知ったのは空港に着いてからで慌ただしい係員に問いただしようやく事の重大さが理解できた。荷物は急いでいた係員にカメラバッグごと乱雑にトランクに入れられたので、有無を言わず自分でトランクによじりカメラバッグを取り出し、バックパックの位置を安全だろう場所にうつした。あのトランクに入り作業した日本人はさすがに少ないだろうな。

また変な思い出を作ってしまった。



カテゴリ：

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(1\)](#)

[アジアの空に水母が漂れる](#) > July 2006 アーカイブ

川@ネパール

[Tweet](#)

[Check](#)

6月24日。デリーのインディラカンジー空港から約2時間

といっても飛行機が遅延していたので予定よりも1時間強遅れてカトマンズの空港に到着

到着時の天候は雨上がりだったのか滑走路は雨の名残を残していた



空港からは手配して頂いたバスでホテルまで移動。

個人で移動する際、この「チャーター」というものの有り難さが身にしみてよくわかる。個人で移動すると空港等からはタクシー等の移動手段をその場で交渉して目的地まで行かないといけないのだが、こちらにとってはその場にいる運転手達しか交渉の余地がない。それを知っている出待ちしていたタクシー等の運転手達が論外な値段を吹っかけてくるのだが、こちらは吹っかけられている事を承知で乗らなければならない。この「チャーター」というものはこういった面倒くささを微塵も感じさせる余地がない。素晴らしい...。佐藤さんありがとうございます。



25日は朝から雨。
しかし、それほど強いものではなく、10時を過ぎる頃には止み始めていた。
この日は雨が降った事もあるが手ぶらで川を見下ろしたが、
その下見した川はお世辞にも綺麗と呼べる代物ではなく
橋のたもとには下水がそのまま流れているだろうと思われる排水溝があり
さらには川にはゴミがブカブカと浮いていたり。

俗に言う、日本では随分減ったであろうゴミ川というやつです。先ほど述べた排水溝の上はなだらかな坂にののだが、そこには山の様なゴミが放置してある。そのゴミの山をよく見るとゴミが動いていた。最近のゴミはとうとう動く様になったのかと感慨深く想い、科学の進歩と人間の未来永劫の発展を...



って豚やん！！

ちなみにこの日の夜ご飯はカツ丼でした。
何よりも、このカツがこの豚じゃない事と自分の近い未来の健康を祈る事を先にしなければと振り返った7月4日。

あっ、カツ丼ですか？おいしかったですよ。

カテゴリ：

post by 羽立 孝 | 日時: 2006.07.05 | [パーマリンク](#) | [コメント \(46\)](#)